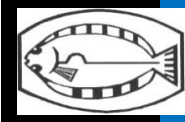

35cm未満は、放しましょう！釣人の約束です。



第8回釣り人によるマツカワ稚魚放流 結果報告

令和6年9月15日(日)

北海道釣魚連盟(道釣連)は日本釣振興会北海道地区支部と共催でR6年9月15日、「第8回釣り人によるマツカワ稚魚放流会」として、浦河港の温水プール裏岸壁でマツカワの稚魚約2000尾を(平均全長9.64ミリ 体重11.7g)を放流しました。

日高管内栽培漁業協議会と浦河町が協力。道釣連浦河支部が主管。道釣連では、地域貢献活動の一環として釣り場環境の整備や釣り人のマナー重視に力を入れて環境整備等基金を設置。釣り人ができる地域貢献として日高管内の浦河支部が主管して「釣り人によるマツカワの稚魚放流と35cm未満はリリースのPR活動」を連動して行い、第5回より日本釣振興会北海道地区支部も協力するなか、本年で8回目となります。

放流式には、道釣連副会長4名全員が出席。代表して国仙筆頭副会長が、連盟も釣るだけでなく育てることや資源の重要性和本日の協力に感謝するあいさつをいただき放流しました。当日は浦河支部の会員や家族など32名が参加してえりも町内の生産育成施設からタンクに入れて車で輸送してバケツ100杯に移し替えて放流。会場には稚魚放流をPRする横断幕が掲げられ、港内で釣りをする町民などにも声掛けをして一緒に放流に参加していただきました。放流する方より「大きくなって帰って来いよ」「稚魚の赤ちゃん、本当にかわいい」「大きくなったら俺のところにもどってこいよ」など本音の声も上がっていました。

最後に海岸や港で釣りをする際には、ごみは持ち帰っていただきたい」とのことばを役場の方からいただき、さわやかな秋空のなかできれいな海岸と大きくなって戻ってきてほしいと心から願い終了しました。

* マツカワの稚魚放流はえりも以西海域に平成18年度から100万尾放流を実施しており、今年の日高管内は、8/30から放流が始まっています。その資源保護のため、海区漁業調整委員会指示により函館市古部町からえりも町東端までの太平洋側で全長35cm未満を採捕したときは、速やかにリリースすることになっている。

(浦河:徳田 正人)